

1. 基本情報

- (1) 国名：インド
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：ビハール州パトナ
- (3) 案件名：マハトマ・ガンジー橋補修計画（Mahatma Gandhi Bridge Renovation Project）
- (4) 事業の要約：インド東部のビハール州パトナにおいて、ガンジス川にかかる損傷の激しいマハトマ・ガンジー橋を改修することにより、急増する道路交通需要への対応を図り、もって同国の経済インフラ整備を通じた持続的経済成長に寄与するもの。

2. 事業の背景と必要性

(1) 当該国における道路セクターの開発の現状・課題及び本事業の位置付け

インドでは近年、急速な都市化が進む一方で、公共交通インフラ整備が十分進んでいないことから、大都市圏では交通渋滞が深刻な問題となっており、これに伴う経済損失が経済開発への大きな障害となっている。道路セクターが輸送シェアの約 57% を担うインドでは、上記課題に対応すべく、同セクターの開発に重点を置いており、第 12 次 5 か年計画（2012 年 4 月～2017 年 3 月）において、道路等の包括的なインフラ整備を経済成長上の重要政策と位置付けている。これを受けてビハール州政府も、「第 12 次 5 か年計画に対するビハール・アプローチ」を策定し、州の更なる産業発展のためにも、道路政策を最優先課題として掲げ、本事業を優先事業として位置付けている。また、本事業対象地域であるビハール州は、2000 年まで貧困率は 41.4% に上り、全国平均の 27.5% を大きく上回るなど、インドの最貧困州の一つとして、同国の経済発展から取り残されてきていたが、2000 年代以降、同州の GDP は順調に成長しており、2010 年度は 14.8%、2011 年度は 13.1% と 2 年連続で全国で最も高い成長率を記録した。こうした経済発展に伴い、同州の車両台数は 2002 年度から 2012 年度にかけて 102 万台から 311 万台に増加してきている。しかしながら、同州の人口 10 万人当たりの道路密度は 125 km（2011 年）と、依然として同国平均 387 km を下回る低い水準にあり、急増する道路交通需要への対応を図るため、早急な道路網の整備が課題となっている。

ビハール州の州都パトナはガンジス河により南北に分断されており、さらに本事業の対象であるマハトマ・ガンジー橋の上下流 70 km 間に橋が存在しない。そのため同橋は国道 19 号線上に位置し全長 5.5 km（片側 2 車線の計 4 車線）のコンクリート橋として同地域の南部と北部と繋ぐ重要な結節点となっている。しかしながら、1982 年に建造された同橋は、上部工の損傷が激しく橋梁区間の複数箇所で一部通行止めとなっており、交通の安全性の低下に加え、本来の交通容量を発揮しておらず交通渋滞が慢性化するなど、同地域の経済活動にとって大きな障害となっているため、速やかな改修が必要とされている。

(2) 道路セクターに対する我が国の協力方針等と本事業の位置付け

我が国の対インド事業展開計画において、援助重点分野である「経済インフラ整備を通じた持続的経済成長の支援」のため、交通ネットワーク整備・維持管理への支援を行うこととしている。本事業はこの方針に合致するものである。

(3) 他の援助機関の対応

世界銀行は、同国の包括的な成長を実現するためには、貧困層を多く抱える農村部のインフラ整備を重点的に進める必要があるとの認識に基づき、インド政府の地方道路開発計画に対する資金供与を行っている。アジア開発銀行（ADB）も、運輸セクターにおけるインフラの改善が重要との認識に基づき、貧困率の高いビハール州で州道整備を支援しているほか、アッサム州、オリッサ州、西ベンガル州等の地方道路整備を支援している。

(4) 本事業を実施する意義

本事業では、損傷の激しい区間の上部工を、交通を全面的には遮断することなく改修することで、交通渋滞を緩和し、地域交通の円滑化に寄与することから、支援の意義は高い。以上のことから本事業は、インド政府の開発政策、我が国の援助方針に合致し、本事業の実施を支援することの必要性・妥当性は高い。

3. 事業概要

(1) 事業概要

① 事業の目的

インド東部のビハール州パトナにおいて、ガンジス川にかかる損傷の激しいマハトマ・ガンジー橋を改修することにより、急増する道路交通需要への対応を図り、もって同国の経済インフラ整備を通じた持続的経済成長の発展に寄与するもの。

② 事業内容：協力準備調査にて詳細確認

1) 橋梁大規模改修工事、アプローチ道路への接続等（入札方式については調査の中で確認）

2) コンサルティング・サービス（詳細設計、入札補助、施工監理等）

③ 他の JICA 事業との関係：特になし

(2) 事業実施体制

① 借入人：インド大統領（President of India）

② 事業実施機関／実施体制：道路交通省（Ministry of Road Transport and Highways）

③ 他機関との連携・役割分担：特になし

④ 運営／維持管理体制：協力準備調査にて詳細確認

(3) 環境社会配慮

① カテゴリー分類 ☐A ☒B ☐C ☐FI

② カテゴリー分類の根拠：本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010 年 4 月公布）に掲げる道路・橋梁セクターのうち大規模なものに該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断され、かつ、同ガイドラインに掲げる影響を及ぼしやすい特性及び影響を受けやすい地域に該当しないため。

(4) 横断的事項：協力準備調査にて詳細確認

(5) ジェンダー分類：分類未定（分類理由：協力準備調査にてジェンダー主流化ニ

ーズを確認する。)

(6) その他特記事項：特になし

4. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用

対バングラデシュ円借款「ルプシャ橋建設計画」の事後評価結果等から、実施機関の大規模橋梁に関する維持管理能力強化及び過積載取り締まりの強化が必要であるとの教訓が得られている。さらに、対インド円借款「カルカッタ都市交通施設整備計画」の事業評価結果等では、適切な交通安全対策の必要性が指摘されている。上記教訓を踏まえ、本事業ではコンサルティング・サービスを通じて実施機関の橋梁維持管理能力の強化を図るとともに、過積載の取り締まり強化及び交通安全面についての対策を講じる予定である。

以 上

[別添資料] 地図

別添

マハトマ・ガンジー橋補修計画 事業対象地域地図

インド全体地図



ビハール州地図

